

女子が銀と銅メダル獲得

上田藍が2位、関根明子が3位

女子はワン・ホンニ(中国)、男子はドミトリー・ガーク(カザフスタン)が優勝

12月8日(金)、第15回アジア競技会のトライアスロン競技が、カタール国のドーハで行われた。アジア競技会でのトライアスロンは今回が初めて。勝てば、歴史に名を刻む金メダルとなる。

年間に5~6回程度しか雨が降らないというカタールでは珍しく、12月1日(金)の開会式とトライアスロン前日の7日は雨模様となり、8日も天候が心配されたが、ときおり雨がぱらつく状態で、晴れ間も見えた。

午前10時スタートとなった女子は、水温の低さが気になったもののウエットスーツ着用禁止のスタートとなった。

まず飛び出したのは、マレーシアのフィーリー・ヤップ。後に続くのは、ワン・ホンニとシン・リンの中国勢。そのすぐ後ろに上田藍(グリーンタワー・稲毛インター)が追う。そして3名おいて関根明子(NTT東日本・NTT西日本)が泳ぐ展開となった。スイム1位は19分39秒でヤップ。上田は48秒、関根はさらに27秒遅れてバイクへと移った。

バイクでは、スイムを1位と1秒差の2位で上がったワンが驚異的なスピードで独走を開始。後を追う第2集団は上田、シン、ヤップにリー・ランジット(フィリピン)を含む4名となり、関根は第3集団を走ることとなった。ワンとの差は周回ごとに広がり、ランへのトランジションに入ったときには、ワンと第2集団の差は約5分に開いていた。

ランにはいってワンは、練習の成果を見せつけ、スピードが落ちない。上田も良く追ったが、30秒程度の差をつめただけ。結局1時間59分44秒のタイムでワンが優勝。上田は4分20秒差で2位となった。

「北京オリンピックのためにも、どうしても勝たなければならなかった」というワンに軍配があがった格好。関根は、ランラップ1位の走りでトップを追い、シンを押さえて3位となった。



やや塩分の多いドーハの海。気温は高くないが、ウエットスーツなしのスイムとなった

上田 藍

(グリーンタワー・稲毛インター)



残念です。悔しいです。ワン選手が一人逃げているのを知って、自分も積極的になるべく集団を引っ張ったのですが、力が足りませんでした。まだ、やらなければならないことがたくさんあるのが分かりました。中国のレベルも上がってきているので、もっとレベルアップをしたい。



女子が銀と銅メダル獲得

上田藍が2位、関根明子が3位

午後1時30分スタートの男子は、スイムから田山寛豪(チームテイケイ)がリードしてバイクへ。

バイクでは、日本、カザフスタン、中国、韓国、香港にウズベキスタンを加えた11名が集団を形成。中盤、山本にシン・ジンソプ(韓国)とジン・ジハン(中国)の3名が逃げ、1分ほど集団に差をつけてランに入った。

ランでは、日本勢とドミトリー・ガーク(カザフスタン)、リー・チー・ウー(香港・中国)と競り合ったが、ガークが7km付近でスパートして優勝。2位はウー、3位はダニール・サブノフ(カザフスタン)となった。山本は4位、田山は5位に終わった。



バイクコースはトライアスロンのメイン会場から旧市街へのコース。旧市街から新市街をバックに

関根 明子

(NTT東日本・NTT西日本)



スイムで遅れて、第3集団に入ってしまった、一人で前を追う力もなく、集団を引っ張る力もなかった。フラットなコースなので、ちぎるのは難しかった。こうなったらいやだな、というパターンにはまってしまった。ワン選手が走れているのにおどろいた。

山本 良介

(トヨタ車体)



金メダルをねらえる位置でずつとレースを戦っていた。自分が勝つとすれば、バイクで逃げるしかなかった。悔いはない。ガークが逃げたときにつけなかったのがいけなかった。2段ロケットのようなスパートだった。代表としてどうしてもメダルが取りたかった。

田山 寛豪

(チームテイケイ)



残念です。バイクで、山本選手が逃げたときにもつけなかったし、ランの7km付近でガーク選手がスパートしたときにもつけなかった。この2点が敗因。2004年のアジア選手権と同じ結果になってしまった。今年最後のレースだったので、来年また鍛え直してレースに出たい。

